

総代幹部研修会

恒例の総代幹部研修会が7月6日に愛知県教化常任委員会企画の下、熱田神宮会館において県神社庁・県神社総代会の共催で開催されました。当日は悪天候にもかかわらず県内より135名の参加がありました。

熱田神宮を正式参拝後、開講式では牧野庁長が挨拶、引き続き神尾俊治総代会副会長より実りある研修にして欲しいとの挨拶がありました。

午前の研修では「『花まつり』について」と題して北設楽郡東栄町鎮座の八坂神社宮司清水晃氏による講演がなされました。氏は子供のころより「花まつり」に参加しての経験を踏まえて、700年にわたる歴史を紹介いただき、その行われ方は各地区により異なっていること、東栄町での祭りの進行を紹介いただきました。そして、今後時代の流れで難しいこともあるでしょうが、できるだけ、今の形で継承していきたいとの決意を申されました。続いて神楽の笛を披露いただき、「花まつり」紹介のDVDの鑑賞し、講演を終えました。講演後の質疑応答では、一夜中の祭りではありますが、清水氏の御園地区では、休憩所がありますが、他地区では難しいとの問題点も提起されました。

次いで午後の講演は皇學館大學教授の松本丘氏により「明治維新と神道思想」との演題で行われました。明治維新150年を迎えるにあたり、維新に向かうまでの江戸初期からの尊王思想勤皇思想により皇室を中心に日本をひとつにまとめようとするのが本来で、それをしようとする志士が実現したのが明治維新であるとし、幕府とのかかわり、学問、事件通じて解説いただき、明治維新の王政復古、神武創業始に帰ると結ばれました。講演後には参加者からの質疑応答がなされ、盛会のうちに講演が終了しました。

最後に受講者を代表して修了証が名古屋第一支部山内嘉一氏に手渡され、三浦正典教化委員長からの総括があり、研修を終えました。

